



工学部広報

自主創造

工学部だより

特待生及び奨学生賞状授与式

平成25年度日本大学特待生及び各種奨学生賞状授与式を7月18日(木)に執り行いました。詳細は右のとおりです。

受賞者	日本大学特待生(甲種).....	4名
	(乙種).....	20名
	日本大学古田奨学生.....	1名
	日本大学ロバート・F・ケネディ奨学生.....	1名
	日本大学オリジナル設計奨学生.....	2名
	日本大学エヌドット奨学生.....	11名
	日本大学桜樹奨学生.....	14名
	日本大学工学部奨学生(第1種).....	6名
	日本大学工学部奨学生(第2種).....	4名
	日本大学工学部奨学生(第3種).....	2名
	日本大学工学部奨学生(第4種).....	18名
	日本大学工学部五十嵐奨学生.....	12名
	計	95名

平成25年度 社会人のための「知的財産権公開講座」

工学部では、産・学・官が協力して知的財産に関する専門知識を共有・伝達することにより、大学と地域社会との交流及び地域産業・経済の活性化に寄与することを目的に、毎年「知的財産権公開講座」を開講しています。本年度は、9月25日(水)から1月22日(水)の間に15の講座を設けて、第一線で活躍する講師をお迎えし、「特許とは」といった知的財産の基礎から、明細書の書き方、技術移転といった実務までの一貫した内容で開講しています。



英単語コンテスト表彰式

9月17日(火)に1年生を対象とした「英単語コンテスト」を開催しました。今年で5回目となるこのコンテストは、日頃から英語学習に慣れ親しむとともに、学習意欲の向上や将来役立つ英語力のステップアップにつなげていくことを目的としています。今回は168名の学生が挑戦。夏休みを利用して勉強に励んだ努力が実を結び、優秀な成績を修めた14名の学生に対する表彰が10月18日(金)に行われ、最優秀者 渡部昌治さん(建築学科)等に賞状と記念品が贈呈されました。



体育会継承式

11月16日(土)、平成25年度日本大学工学部体育会第46代常任役員会継承式及び披露宴が行われました。各団体の新旧の代表者等が集まり、体育会第46代委員長と常任役員11名が任命され、新たな決意を表明していました。



建築家 手塚貴晴氏 講演会を開催

9月28日(土)に70号館7014講義室にて、手塚貴晴氏(東京都市大学特任教授・建築家)をお招きし、「設計のプロセスを語る/設計の意味と役割」と題した講演会が開催され、建築学科学生約200名と一般参加者約40名が聴講しました。「建築家の目的は建築をつくることではなく、つくって人を幸せにすることである」というご自身の建築に対する考えを述べられた後、「屋根の家」「ふじようちえん」などの作品を中心に最新プロジェクトまで手塚先生の人柄が感じられる、人を幸せにする建築の設計プロセスについて熱く語られました。



環境美化運動実施

環境美化に対する学生への意識向上を目的に、学術文化サークル連合会、体育会、北桜祭実行委員会の3団体主催による環境美化学内清掃を11月25日(月)から29日(金)に行いました。昼休みに集まり、曜日ごとに清掃するエリアを決めて集中的に行いました。ペットボトルや空き缶などの他に、駐車場では煙草の吸殻が多く投げ捨てられていました。環境美化運動実行委員長の神山遼さんは、「学生が主体となって実行することに意義があると思っています。マナーを守りゴミを捨てないようにしてほしい」と呼びかけ、今後も定期的の実施したいと話していました。



福島県警察本部長による講演

11月21日(木)、福島県警察本部による「警察活動と市民の安心・安全について」の講演会を行いました。本部長警視監の名和振平氏は、市民の安心・安心を守るために警察がどのような活動を行っているかを説明されるとともに、県内で起こっている犯罪や事故の実態とその対策についても触れられました。将来、警察官を志望する学生や日常生活での身の守り方に関心がある学生にとって大変良い機会となりました。



人事

昇格 図書館事務課 主 事 菅 井 正 一 (平成25年10月1日付)	研究事務課 主 事 齋 藤 義 高 (平成25年10月1日付)	高校事務課 書記 澤 井 直 樹 (平成25年10月1日付)	教務課 書記補 秦 雅 (平成25年10月1日付)	学生課 書記補 保 坂 脩 斗 (平成25年10月1日付)	退職 図書館事務課(事由:物故) 書記 渡 邊 修 (平成25年9月7日付)
役職任命 事務局長 参 事 渡 邊 和 美 (平成25年11月11日付)	事務局長 参 事 酒 井 泰 志 (平成25年11月11日付)	特任事務局長 参 事 補 伊 藤 智 夫 (平成25年11月11日付)	庶務課長 参 事 補 清 野 正 昭 (平成25年11月11日付)	教務課長 参 事 補 野 口 眞 一 (平成25年11月11日付)	管財課(事由:定年) 嘱 託 松 村 喜 一 (平成25年11月4日付)
図書館事務課長 参 事 永 井 義 章 (平成25年11月11日付)	研究事務課長 参 事 補 添 田 喜 彦 (平成25年11月11日付)	就職指導課長 参 事 補 高 橋 史 典 (平成25年11月11日付)	学生課主任 主 事 佐 久 間 眞 一 (平成25年10月1日付)	管財課主任 主 事 佐 久 間 誠 剛 (平成25年10月1日付)	事務局長次長(事由:定年) 参 事 中 野 榮 人 (平成25年11月10日付)
異動 研究事務課(異動元:教務課) 主 事 齋 藤 義 高 (平成25年10月1日付)	図書館事務課(異動元:管財課) 主 事 高 田 イ ミ (平成25年10月1日付)	管財課(異動元:庶務課) 書記 下 重 紗 弥 佳 (平成25年10月1日付)	教務課(異動元:図書館事務課) 書記補 秦 雅 (平成25年10月1日付)		

未来へ語り継ぎたいものがある
工学部広報
2013 No.239 平成25年12月20日

編集:日本大学工学部広報委員会
発行:日本大学工学部 TEL(024)956-8618
〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中河原1
http://www.ce.nihon-u.ac.jp E-mail koho@ao.ce.nihon-u.ac.jp

ご意見・ご要望がございましたら、お気軽にお寄せ下さい。



CONTENTS

特集 第63回北桜祭
「ありがとう。」
..... P1-2

工学部体育祭「秋の陣」..... P3-4
課外活動応援団 P5-6
課外体験授業 P7-8
研究特集 P9-10
学生の活躍 P11-12

〈就職特集〉

●2013 就活速報!..... P13-14
●工学部の就職支援活用術... P15-16
社会で活躍する卒業生 P17
工学研究所NEWS P18
工学部だより P19

Thank you

第63回 北桜祭

「ありがとう。」

大型の台風が日本に接近中というニュースがメディアで報じられていた、北桜祭開催2日前。北桜祭実行委員会はその影響を考慮し、メイン会場を屋内に移動させ、屋外でのイベントの一部と模擬店の中止を決断しました。台風が上陸すれば、北桜祭自体の開催も危ぶまれます。関係者のみならず、どうなるのかと心配しながら迎えた当日の朝。雨は止まない天候ではありましたが、無事北桜祭を開催することができたのです。北桜祭実行委員会委員長の吉川隆浩さんは開祭式の挨拶で、北桜祭を迎えられたことを喜ぶとともに、関係者や来場者の方々への感謝の気持ちを表しました。初めて屋内で行われるパルーンリリースには、いつもと違った趣がありました。メインステージに飾られるはずだった「ありがとう。」の横断幕が見守る中、吹き抜けになった7階まで風船はゆっくりと上昇し、万華鏡のようにガラス張りの天井を鮮やかに彩ったのです。規模は小さくなってしまった北桜祭。でも、いつもよりも「ありがとう。」の気持ちを強く感じる2日間になりました。

4年間のパフォーマンスに「ありがとう。」

今話題のゆるキャラ「ふなっしー」の着ぐるみや土星ならぬメイド星が登場した仮装大会。笑いあり、驚きありでステージは大いに盛り上がりました。



投票の結果は最終日に発表され、優勝はフリーパフォーマンスでダンスも披露してくれたKARYSのリーダーに決定しました。KARYSは日本大学東北高校時代に結成された、今年7年目を迎えるダンスチーム。リーダーは日本大学の経済学部へ、その他のメンバーは工学部へ進学しましたが、活動はずっと続けてきました。



大学1年の時から4年間、北桜祭のステージでも踊ってくれていた

のです。卒業とともに解散することになっているKARYSにとって、今年の北桜祭は最後のステージ。「ダメな人間のダメなダンスを今まで盛り上げてくれた「ありがとう。」北桜祭に参加させてくれた北桜祭実行委員会にも感謝しています」と4年間のステージをしみじみと振り返りながら、会場を後にしました。これまで素敵なダンスで楽しませてくれたKARYSへ、観客からの感謝の気持ちが仮装大会の投票に込められていたことを、その時はまだ知らないKARYSなのでした。

大きな手で支えてくれる監督に「ありがとう。」

毎年、北桜祭と同日に行われる「母校を訪ねる会」。卒業10年ごとに50年後までの5世代にわたる校友の方々に参加する行事です。懇親会で応援団が演武を披露するのも恒例になりました。応援団が復活したのは10数年ほど前のこと。現在、日本大学で正式に応援団として活動しているのは、ここ工学部だけです。復活の立役者であり、今も監督として後輩たちを指導する

のはOBの深野一男氏。普段は厳しい監督ですが、校友の皆さまを前に深い愛情のこもった温かい言葉で、団員たちを紹介してくださいました。そして「昔の応援団とは違うかもしれませんが、先輩方に負けないよう一生懸命やらさせていただきます」と送り出しました。そんな監督の期待に応えるかのように、応援団一同は精魂込めて校歌や応援歌を歌い上げました。その勇姿に、会場からも盛大な拍手が沸き起こりました。辛いこともあるけれど、自分たちが深野監督の大きな手で支えられていることを改めて実感した団員たち。感謝の気持ちとともに、監督が理想とする応援団を目指して頑張ろうと誓っていました。



心の青空に刻む「ありがとう。」

第63回北桜祭のポスターに選ばれた青空をデザインした情報工学科3年の安済里佳さんは、「青い空を見上げると、爽やかな気持ちになって、いろいろなことに「ありがとう」と思えるから」と話していました。残念ながら、天候には恵まれなかった北桜祭。でも、青い空はみんなの心の中にありました。そこには、誰かを思う「ありがとう」の言葉が刻まれています。これまでにない不測の事態に対応した北桜祭実行委員会。「地域の皆さまのご協力と学生みんなの結束力があつたからこそ実現できたと思っています。いつも以上に「ありがとう」を感じる北桜祭になりました」と委員長の吉川さん(写真中央)はみんなに感謝していました。



ご来場いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

人と人、物と物、そして絆をつないでくれる日本のレールに感謝!



いつも後輩の僕を灯台のように導いてくれる先輩に感謝しています!



北桜祭の展示が成功したのもみんなの協力があったからこそ。ありがとう!



卒業生から先生へ学生時代はいろいろご指導や就職の支援をいただきありがとうございました!



地域の皆さん毎年北桜祭にご来場いただきありがとうございます!



ツーリングをしていた私たちに、ドリンクを差し入れてくれたコンビニの店員さん、ありがとう!!

接戦! 善戦!! 大激戦!!!

工学部体育祭

秋の陣

さまざまなスポーツを通して、精神と肉体の鍛錬と仲間との絆を深めるために行われる工学部体育祭。台風の影響でフットサルは残念ながら中止になったものの、10月12日(土)にはバスケットボールとバドミントン(新設競技)の全試合、11月6日(水)にはソフトボールの準決勝、7日(木)に決勝を実施。この日のために体を鍛えてきたという工学部生たちの戦いぶりを結果とともにお伝えします。

Basketball

バスケットボール

祝優勝 チームもえもえきざし



ゴトーズ (準決勝第2試合) 20	チーム もえもえきざし 7	17 チーム新潟 (準決勝第1試合)
T.K デストロイ ブレイカース 14	22 決勝	19 チーム もえもえきざし



決勝 ゴトーズ VS チームもえもえきざし

最後の思い出にと昨年の雪辱に燃える「ゴトーズ」は、電気電子工学科4年生で結成されたチーム。対する「チームもえもえきざし」はバスケット経験者の建築学科1年生で結成されたフレッシュなチーム。試合は、準決勝で昨年の覇者「チーム新潟」に競り勝って波に乗る「チームもえもえきざし」が序盤からリードする展開。苦しい戦いを秘めた闘志で制してきた「ゴトーズ」も、その勢いを止められない。先輩チームを相手にシュートを量産した「チームもえもえきざし」が22-7の圧勝で勝利を飾った。



優勝コメント

バスケット経験者が集まったので、最初から優勝を狙っていました。決勝戦が一番良い試合内容でした。4連覇目指し頑張りますので、来年も応援よろしくお願いします!



Badminton

バドミントン

祝優勝 松鶴 功一郎さん (機械工学科 4年)



保坂脩斗 (準決勝第2試合) 0	松鶴功一郎 2	石浦晃久 (準決勝第1試合) 2
松鶴功一郎 2	0 決勝	1 木幡大地

決勝 松鶴 功一郎さん VS 石浦 晃久さん

遊び程度にラケットを握っているという松鶴さんと中学時代にバドミントン部に勝ったことがあるという石浦さん。はたして初代チャンピオンの称号を手にするのはどちらか!? 優勢に試合を進めたのは松鶴さん。準決勝をフルセット戦った石浦さんは次第に疲れが見え始め、思うようなスイングができない。一方の松鶴さんは、まだまだ元気いっぱいと言わんばかりに力強いスマッシュを決めて点差を広げていく。そのまま2セット連取した松鶴さんが初代チャンピオンの座に輝いた。



優勝コメント

体育祭に参加して、とても楽しかったです。優勝できたことはもちろん、友だちが増えたことは大きな収穫でした。来年もぜひ参加したいと思います。



Softball

ソフトボール

祝優勝 電気電子工学3年



DJ ミート feat 野間 (準決勝第2試合) 2(4)	電気電子工学3年 4	9 コウリヤマベジダブルズ (準決勝第1試合)
電気電子工学3年 2(5)	2 決勝	0 子's☆

決勝 電気電子工学3年 VS コウリヤマベジダブルズ

決勝は、電気電子工学科1年の仲が良いメンバーで結成された「コウリヤマベジダブルズ」と電気電子工学科3年の1・2組で構成された「電気電子工学3年」の学科頂上決戦となった。静かな立ち上がりを見せた初回だったが、2、3回に「電気電子工学3年」が立て続けに点を取ると3回裏には「コウリヤマベジダブルズ」が追いつく展開。しかし、4回表に「電気電子工学3年」が均衡を破る2点タイムリー。結局このヒットが決勝点となり、電気電子工学3年が先輩の意地を見せ優勝した。



優勝コメント

皆で楽しんでソフトボールがしたいと思って集めたメンバーだったので、優勝できて本当に良かったです。



来年もさまざまな競技を実施します。皆さん奮ってご参加ください。

課外活動

応援団

さまざまな活動を通して活躍するサークル にスポットをあて、熱いエールを送ります。

機械研究会

会長 白川 裕太さん(機械工学科3年)

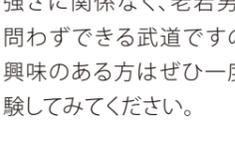
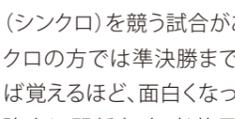
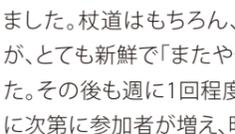
機械研究会は車やバイク好きという同じ趣味を持つ約20人の仲間が集まっている、とても楽しいサークルです。主に2つの大会を目指し活動を行っています。1つは栃木県ツインリンクもてぎで行われる、通称「エコラン」と呼ばれる「HONDAエコマイレージチャレンジ」。1リッターのガソリンでどれくらい走れるかを競う大会です。昨年まではオリジナルマシンでの競技に参加していましたが、今年は市販2輪車クラスに挑戦し47位でした。もう1つの大会は、二本松市のエビスサーキットで行われる「LOVE&PEACEミニバイク90分耐久レース」。こちらはタイムを競う大会で、少ない排気量でいかにスピードを出せるかがポイント。今年はSPクラスで最高順位7位という結果でした。それぞれのレースに向けて、毎週木曜日にミーティングを行い、車両整備の分担や作業スケジュールを話し合い、金曜日に整備を実施しています。車両整備をしながら機械の知識や技術を学べるところが機械研究会ならではの魅力です。近年の大会では、あまり良い成績は残せていませんが、日々優勝を目指して頑張っています。休日は羽鳥湖高原やいわきにツーリングに出かけることもあり、和気あいあいとしたサークルです。車やバイクに興味のある方はもちろん、機械いじりの好きな方、一緒に楽しみませんか。



杖道同好会

代表 松岡 大智さん(電気電子工学科4年)

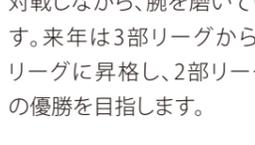
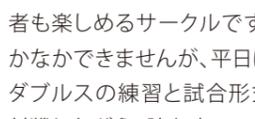
杖道(じょうどう)とは日本の古武道で、一般に攻撃と防御を合理的に組み合わせた形を反復して稽古する形武道です。長さ約128cmの木の棒である杖を使って、太刀の攻撃を防御するための「太刀落」や「水月」、「物見」といった、さまざまな技の形を身につけます。数年前に杖道の有段者である総合教育の小林鉄雄先生からお話を聞き、興味を持った学生数人で体験講習会に参加しました。杖道はもちろん、武道を体験するのも初めてでしたが、とても新鮮で「またやってみたい」という気持ちになりました。その後も週に1回程度、小林先生に指導していただくうちに次第に参加者が増え、昨年4月、念願の同好会を結成することができました。杖道のサークルが大学にあることは珍しいようです。普段は週1~2回の稽古と、年4回程度、東京都杖道連盟の講習会で指導していただき、各々昇級試験を受けてレベルアップを図っています。また、東京杖道祭と全国大会にも出場しています。競技会では、形の精度の高さを競うのですが、3人1組で戦う団体戦は、形の優劣を競う試合と形の協調性(シンクロ)を競う試合があります。5チーム出場したうち、シンクロの方では準決勝まで進むことができました。形を覚えれば覚えるほど、面白くなっていくのが杖道の魅力。体力や力の強さに関係なく、老若男女を問わずできる武道ですので、興味のある方はぜひ一度、体験してみてください。



卓球部

部長 和泉田 剛志さん(土木工学科2年)

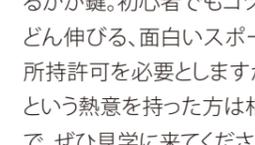
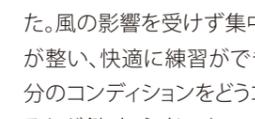
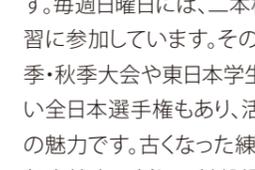
我々卓球部は、卓球というスポーツを通して心身を鍛え、部員相互間の親睦を深めることを目的としています。第一の目標は、「東北学生リーグ」の1部昇格です。今年の春季リーグでは、3部リーグでの優勝を果たし、2部に上がることができました。しかし、ワンランクレベルアップした秋季リーグでは、苦戦を強いられ最下位となり、来春はまた3部リーグからのスタートになってしまいました。第二の目標はオール日大での優勝。今年は初戦をストレート勝ちし好調でしたが、2回戦で惜しくも3対2で敗れ、優勝することはできませんでした。そんな状況ではありますが、今年は1年生が多く入部してくれたので、来年の大きな戦力になってくれるものと期待しています。その他インカレの出場を目指し、個人、ダブルスのトーナメント戦での優勝も目指しています。個々のレベルアップを図るため、郡山市の大会にも参加。今年はベスト16が最高でしたが、去年はベスト8に6人が入り、うち1人が準優勝しています。先輩後輩にかかわらず仲が良く、経験者だけでなく初心者も楽しめるサークルです。全員が揃って練習することはなかなかできませんが、平日は19時から体育館3階でシングル・ダブルスの練習と試合形式で対戦しながら、腕を磨いています。来年は3部リーグから2部リーグに昇格し、2部リーグでの優勝を目指します。



射撃部

部長 近内 貴志さん(機械工学科2年)

射撃はオリンピック競技人口世界第3位と多く、他の競技よりも精神面を重要とし、高い運動能力を必要としないので、生涯スポーツとしても注目されています。また、エアライフルやビームライフル、ピストルを使って距離や姿勢を変えて撃つさまざまな競技があります。私たちは主に男女別10mの距離から直径3cmほどの的を狙って撃つエアライフル競技に参加しています。最大の目標は国体での入賞です。そのためには県の代表に選ばれなければなりません。県大会や東北大会に出場し上位の成績を残すことはもちろん、シーズン前半に二本松市総合射撃場で行われる福島県ライフル射撃協会主催の記録会での点数も選考の基準になります。毎週日曜日には、二本松市総合射撃場で本番さながらの練習に参加しています。その他、関東学生ライフル射撃選手権春季・秋季大会や東日本学生ライフル射撃選手権大会、予選がない全日本選手権もあり、活躍の場が広がっていくことも射撃部の魅力です。古くなった練習場を取り壊し、部室棟中に新しい射撃場も設置されました。風の影響を受けず集中して撃てる環境が整い、快適に練習ができます。射撃は自分のコンディションをどうコントロールできるかが鍵。初心者でもコツをつかめばどんどん伸びる、面白いスポーツです。銃には所持許可を必要としますが、競技をしたいという熱意を持った方は相談に乗りますので、ぜひ見学に来てください。



学びのフィールド
広がる

課外体験授業



土木工学科で 相双地区の 被災状況を見学

福島県相双建設事務所のご協力をいただき、8月5日(月)に「土木工学科学生見学会」を実施しました。新地町曙橋付近にて被災状況と減災を考慮した復興計画の説明を受けた後、曙橋周辺の被災現場に入りました。津波により床版が数十メートル流された曙橋を実際に見て津波の威力を実感しました。次に、大浜地区では海岸堤防の被災状況とこれから施工する海岸堤防の構造について説明を受けた後、破堤状況と波消しブロック設置状況を見学。堤防が押し波よりも引き波による影響で被災した状況も確認することができました。現在、避難指示解除準備区域となっている浪江町は、一時立入車両通行



許可書を申請しての見学でしたが、崩れたままの一般住宅、横転したままの車、内陸部まで運ばれた漁船など、「3.11のままの状況」を見られたのは、学生にとっても貴重な体験になったようです。各見学地点では学生から活発な質問があり、大変有意義な見学会となりました。



「郡山市震災後 子どもの心のケア プロジェクトチーム」に参加

郡山市約3万人の子どもを対象とした運動・食・心に関するアンケートが行われ、工学部の学生がボランティアで回答の集計・データ化に携わりました。これは、東日本大震災後、郡山市と郡山医師会が連携し立ち上げた『郡山市震災後子どもの心のケアプロジェクトチーム』で行ったもので、保育園・幼稚園児から小・中学生までの児童を対象にしており、子どもたちの成長に役立てようというものです。電気電子工学科と情報工学科の学部生と院生が、配布するアンケートの封入作業やアンケート集計のための準備や管理、取りまとめを行いました。さらに夏休みには約100名の学生がボランティアで、アンケートのデータチェック作業に



協力しました。これほど大規模な調査は全国的にも例がなく、学生たちの協力が大きな力となりました。通常のボランティアとは形は違いますが、自分たちがやらなければいけないという使命感に燃えたという学生たち。最後は、協力して一つのことをやり遂げた達成感を皆で分かち合っていました。



建築学科で 災害復旧工事等の 現場見学会を実施

建築学科では3年前期の授業の一環として、6月15日(土)に仙台市太白区あすと長町土地区画整理事業地区内にある「(仮称)SHIP あすと長町ビル新築工事事務所(鹿島建設(株)施工)」での建築現場の見学会を実施。普段足を踏み入れることのない大規模な工事現場を見学しました。迫力満点の作業風景とそこで働く人々の仕事に取り組む真摯な姿は、とても臨場感に溢れていました。最先端の建築技術を目の当たりにし、オーダーメイドなものづくりの醍醐味を学ぶことができました。10月25日(金)には福島県県中建設事務所の協力の下、郡山市の福島県立安積黎明高等学校災害復旧工事の現場見



学会を開催しました。建築学科1～3年生の有志24名が参加。完成すると壁や床の中にあるため、実際は見るできない配管や下地材に対しても丁寧に施工していることや、建物のあらゆる所に基準の位置が採られていることを知り、施工の難しさを楽しさを学ぶ機会となりました。



学部連携研究推進 シンポジウムで 異分野交流を体験

11月8日(金)・9日(土)、工学部50周年記念館大講堂で、平成25年度日本大学学部連携研究推進シンポジウムが行われました。「日本大学の総合力を結集し、大災害に抗した持続可能なコミュニティの実現と未来世代への継承シナリオ」をテーマに、工学部、生物資源科学部、生産工学部、理工学部、文理学部、短期大学部及び国内・海外の研究者や専門家による講演とパネルディスカッションで、未来への提言が熱く議論されました。聴講した機械工学科の学生は、「他分野の研究の話が聞けて、とても新鮮でした。大変興味深く、これから研究していくうえでも参考になります」と話していました。また、研究成果を発表するポスター



セッションでは、学生が自分の研究について熱弁を奮いました。他学部の教授からのアドバイスや他学科の学生の意見を聞くことができ、自分の研究を別の観点から見直す良い機会になったようです。学部間の親睦を深める懇親会では、学生同士の交流も見られ、互いに研究活動への意欲を語っていました。



研

Research Features

究特集

工学部の研究実績を
クローズアップ!!

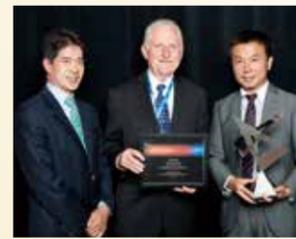
★これら教員の活躍については、工学部ホームページ「工学部広報PLUS」で詳しく紹介しています。



次世代型パーソナルモビリティ

3

NI社コンテストライフサイエンス部門最優秀賞受賞



電気電子工学科の村山嘉延准教授(写真右)が開発した『医療機器・多機能超音波凝固切開装置の開発に向けた圧電超音波振動測定・制御システム』が、米国NIアプリケーションコンテストにおいて、ライフサイエンス部門の部門賞(最優秀賞)を受賞しました。計測器・測定器・制御システムを開発する世界有数の企業である米国NI(ナショナルインスツルメンツ)社が主催するNIWeek 2013で開催された『第6回Graphical System Design Achievement Award』は、各国で最優秀賞を獲得した150以上の応募作品のうち、NI製品の活用性、技術の革新性、世の中への貢献度合いなどを基準に選定される賞です。今回は、分野(環境/人道/教育/自動車/バイオ技術/ライフサイエンスなど)ごとに目立った成果を挙げているアプリケーションに与えられる部門賞が授与されました。現在、経済産業省『戦略的基盤技術高度化支援事業』の採択を受け、企業と共同で研究を進めている『ニードル型超音波凝固切開装置の開発』。今回、NI社のシステム開発ソフトウェアを使って構築した『圧電超音波振動測定・制御システム』は、超音波凝固切開装置の細径化実現に向けても、大きな成果となりました。



圧電超音波振動測定・制御システム

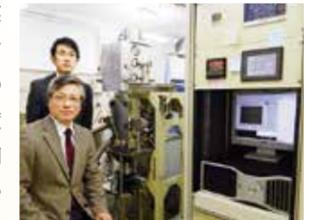
4

次世代材料の研究開発で日本金属学会論文賞受賞



総合教育の藤原雅美教授(写真右)と高木秀有専任講師(写真左)等が発表した論文『押し込み試験とモデリングによるベキ乗則材料の単軸クリープに関する構成式の予測』が、第61回日本金属学会論文賞を受賞しました。公益社団法人日本金属学会は、国内最大規模の会員数を誇る金属材料等の材料工学分野を対象とする学会で、論文賞は学会誌に掲載された年間約250篇(和文・英文)の論文の中から、審査員の投票により最も優秀な論文に対して授与されます。高温でも強い構造材料を開発することを目的に、次世代マグネ

シウム合金の高温変形機構について研究を進める中で、通常ボールペンほどの大きさを要するところを米粒程度の大きさのサンプルで試験しても、全く同じ測定結果が得られることに成功しました。同教授が開発(特許取得)し、2000年にNUBICを通して国内TLO技術移転第一号となった計装化押し込み試験装置(製品名:マイクロインデンター)を使った実験と計算機シミュレーションによって実証しました。少量の試験体から短時間に高精度な測定結果が得られる画期的な試験法として、国内外から高い評価を受けています。



マイクロインデンター

5

東京モーターショーにパーソナルモビリティを出展



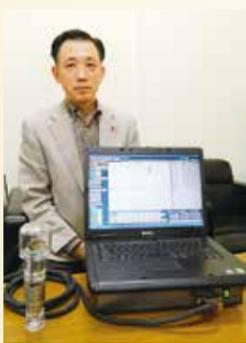
機械工学科の西本哲也教授と福島県の産学官組織で開発を進めてきた高齢者向け次世代電動カーが、11月22日(金)から12月1日(日)に東京ビッグサイトで開かれた『東京モーターショー2013』に出展されました。衝突・転倒危険時の警告と緊急通報システムを備えた安全安心パーソナルモビリティとして、身体機能の低下した高齢者向けに開発された電動カー。過疎地などで暮らすお年寄りの「生活の足」になると大きな期待が寄せられています。このプロジェクトには、福島県内の自動車関連企業を中

心に約20社が参画。その高い技術力と西本教授のバイオメカニクスの研究成果を結集し、2011年秋から開発がスタートしました。将来は、県内の自動車産業振興につなげることが目的です。世界の大手自動車メーカーなど200以上の企業・団体が出展した世界有数の車の祭典『東京モーターショー』では、福島のものづくりの力を世界に発信するとともに、自動車業界のみならず、一般の方からも高い注目を集めていました。試作機は2号機まで完成。さらに実用化を目指し、改良を進めています。



1

日本設計工学会優秀発表賞受賞



今回の論文『人工の擬似しこりを有した筋硬度計の硬軟探索に関する研究』は、肩こりなどのしこりの硬さを測定する装置の開発

公益社団法人日本設計工学会 2012年度秋季研究発表講演会において、機械工学科の長尾光雄准教授が発表した論文が優秀発表賞に選ばれ、2013年度春季研究発表講演会で表彰されました。長尾准教授の計測・診断システム研究室では、臨床医療技術を支援する生体計測方法の提案と試験装置の研究開発を行っています。

につながる実験結果をまとめたものです。いろいろな人の皮膚や筋肉を再現した擬似モデルから、筋硬度計測装置の圧子の押し圧の加減により、擬似しこりの硬軟判別が可能かどうか、そして験者(柔道整復師)と被験者(患者)に適用できるかどうか検証実験を行いました。技術的には、柔道整復師の触診と同様に、押し込む加減によってしこりの硬軟を探索検知できるという成果が得られました。施術の効果を科学的に実証できるのが、筋硬度計を使用する最大のメリットです。複数体の被験者に対して験者が経験する硬軟の定量化と臨床応用を進め、製品化を目指していきます。



筋硬度計測装置(試作2号機)

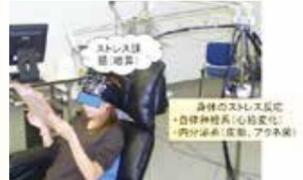
2

ストレス状態を判定する小型診断システムの開発



電気電子工学科の酒谷薫教授は、大手化粧品メーカーの資生堂と共同で、ストレス状態を判定する小型診断システムの開発に成功しました。これまで酒谷教授は、光学的な生体計測機器や診断システム開発を専門に研究してきました。ストレスによる右脳と左脳の反応性の違いに着目し、近赤外光を額の2か所に当て、前頭葉の左右の血流のバランスを測定することで、目に見えないストレス状態を数値化するシステムを開発。光は体を通過しても害がないことやX線を使う機器より小型化できるので、移動も

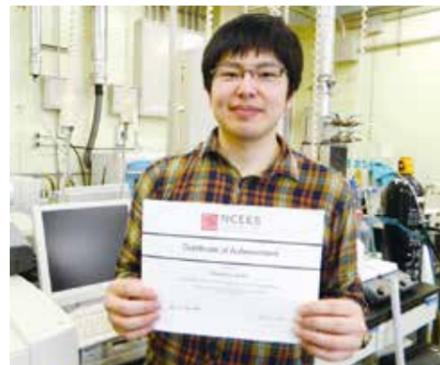
可能で応用範囲が広いというメリットがあります。光を使って客観的にストレスを判定できる今までにないシステムということで、注目を集めています。また、酒谷教授は東日本大震災で目に見えないストレスを抱えている郡山の女性の方を元気にしたいという思いから、資生堂と共催で『化粧療法セミナー』も実施しました。化粧を体験した後に、診断システムを使って測定すると、どのくらいストレスが解消されたかがわかるのです。今後は、仮設住宅を訪問して『化粧療法』で少しでもストレスを緩和できるように支援したいと考えています。



ストレス診断システム

👑 FE試験に見事合格!

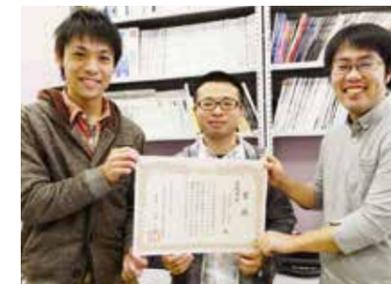
今年4月に行われたFE(ファンダメンタルズ オブ エンジニア)試験において、物質化学工学専攻博士前期課程1年の磯部将一さんが見事合格しました。FE試験は、技術分野での国際的な職能資格である米国のPE資格の一次試験にあたります。工学部ではFE試験の内容(工学一般分野)に特化した授業科目を設けたり、FE試験対策課外講座を開講するなど、合格を目指す学生をサポートしています。磯部さんは大学院進学を機に資格を取りたいと決意し、2回目のチャレンジとなるFE試験に挑戦。一度の失敗で諦めず、目標に向かって努力し続けた成果が実りました。



『笠間稲荷門前通りポケットパークデザインコンペ』

👑 最優秀賞受賞

10月4日(金)に茨城県笠間市で行われた『笠間稲荷門前通りポケットパークデザインコンペ』において、建築学科住環境計画研究室(写真左から古俣甲太郎さん、前田建都さん、三代川昌礼さん)の「和」が見事最優秀賞を受賞いたしました。道路改修が行われる門前通りに合ったポケットパークの参考とするために行われたコンペです。最終審査まで勝ち残った4団体の作品(パネル・模型)がプレゼンテーションに臨み、その中から2作品が最優秀賞に選ばれました。同研究室の作品は「ポケットパークの外装」デザインや「観光PRマップ」デザインが高く評価され、受賞の栄誉に輝きました。



化学工学会第45回秋季大会で

👑 優秀学生講演賞受賞

9月16日(月)から18日(水)に岡山大学で開催された公益社団法人化学工学会第45回秋季大会のシンポジウム(次世代技術を担う最新の基礎物性研究)において、物質化学工学専攻博士前期課程2年の遠藤康裕さんが、優秀学生講演賞を受賞しました。講演題目は、「グライム-スルホン酸リチウム塩溶液の密度・粘度・二酸化炭素溶解度」。現在、独立行政法人産業技術総合研究所と共同で研究を行っている、「最先端・次世代研究開発支援プログラム」の成果によるものです。イオン液体を利用し吸収効率の高いガス吸収液を開発するとともに、低コスト型温室効果ガス吸収プロセスの構築を目指しています。



👑 第17回JIA東北建築学生賞で優秀賞と奨励賞を受賞

10月18日(金)に、せんだいメディアテークで行われた第17回JIA東北建築学生賞(公益社団法人日本建築家協会東北支部主催)において、建築学科4年の樋口卓史さん(写真左)の作品「都市の茶の間-集落的建築群」が優秀賞を、同じく星陽太郎さん(写真右)の作品「修験道史料館-見る・歩く・感じる-」が奨励賞(東北専門新聞連盟賞)を受賞しました。公開審査に選ばれたのは37作品。審査員の講評による第一次・第二次審査が行われ、10作品が第三次審査のプレゼンテーションに進みました。二人はそれぞれの作品のコンセプトや考えを発表し、審査員の方々に高く評価された結果、賞をいただくことができました。



👑 第6回 新☆エネルギーコンテストで各賞を受賞

一般社団法人日本機械学会「技術と社会部門」主催による『第6回新☆エネルギーコンテスト』が、9月28日(土)に工学部キャンパスで開催されました。エネルギー自立・自然共生型住環境の実現に不可欠な、太陽、風力、地熱、木質系バイオマスなどの新☆エネルギーの有効な利用方法のアイデアを競うコンテスト。機械工学科の学生もユニークかつ独創的なアイデアを発表し、さまざまな賞に輝きました。

- 【ポスター部門】●スズキ製作所賞 ……「サステナブルシティ」 創生学研究室
 ●東洋製作所賞 ……「地球からのSOS」 創成学研究室
 ●エヌケー電子賞 ……「熱電変換冷蔵庫」 水口 涼平さん
 ●アド賞 ……「養殖マグロ発電装置」 立崎 智哉さん
 ●アド賞 ……「再生可能エネルギーを用いた湖沼環境モニタリングシステム」 サステナブルシステムデザイン研究室
- 【展示・実演部門】●エヌケー賞 ……「WIND MEL」 材料工学研究室
 ●東洋製作所賞 ……「水中風車ハウス(第2報:アルキメデスポンプの適用)」 サステナブルエネルギー研究室



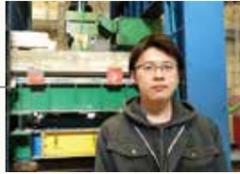
👑 軽金属学会で優秀ポスター発表賞

一般社団法人軽金属学会第125回秋季大会において、機械工学専攻博士前期課程2年の山梨直紀さんが優秀ポスター発表賞を受賞しました。発表した「微細結晶粒Al-Mg固溶体における荷重急変後の押込みクリープ挙動」は、わずかな体積の試料からクリープ特性が評価できる計装化押込み試験法を用いて、微細結晶粒Al-Mg固溶体に対して0.4Tm程度の押込み荷重急変試験を実施し、押込みクリープにおける転位運動を解析したものです。微細結晶粒アルミニウムマグネシウム合金は鉄鋼材料と同程度の強度を持ち軽量であることから、次世代材料として注目を集めています。その特性を知る上で重要な研究であることが評価につながっています。



株式会社熊谷組に内定

●土木工学科 4年
阿部 翔太さん

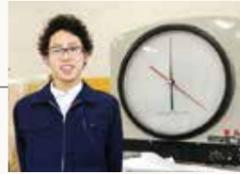


早い段階で 第一志望の企業を決める

将来はトンネル工事などの大きな仕事に携わりたいと思い、トンネルの施工実績や独自の技術を持っているこの会社を志望しました。本格的に就職活動を開始したのは、就職活動体験発表会に参加した後ですが、早い段階で第一志望の企業を決め、就職された先輩からいろいろな話を聞いていたのがよかったと思います。企業面接の際に提出するエントリーシートは、就職指導課の方に添削していただき、大変感謝しています。より強い印象の与え方やアピールポイントについてのアドバイスも有効的でした。就職活動期間はあっという間に過ぎるので、「集中」して、しかし焦らず頑張ってください。

大成建設株式会社に内定

●土木工学科 4年
川村 宇紀さん



日本大学卒業生の リクルーターとの出会い

本格的に就職活動を始めたのは、昨年12月からでした。国家の発展に貢献できるような大きな仕事がしたいと考え、土木工学科で行った大手ゼネコンの大成建設(株)の説明会に参加。その時に、日本大学を卒業したリクルーターの方とお会いできたことが、就活を成功に導くポイントだったと思います。学部が違っても日本大学というネットワークは、就活でも大きな強みです。また、就職への意識の高い友人の存在も、就活を乗り切る支えになりました。インフラの長寿命化について研究してきたことを活かし、国民のために尽力していきたいと思っています。

KDDI株式会社に内定

●電気電子工学科 4年
石井 大地さん

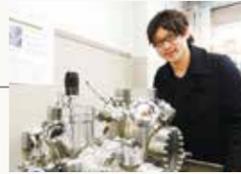


就活の原動力は 自身の将来への好奇心

進化し続ける通信業界で新しいことにどんどん挑戦させてくれる会社に内定が決まり、嬉しく思います。試験は面接だけでしたので、どう自分をアピールできるかを考え、身だしなみや第一印象、会話に気をつけながら、他の人にはない雰囲気づくりを心掛けました。面接が楽しいと感じるくらい、自分のやってきたこと、やりたいことを存分に伝えることができました。人事の方にも元気でパワフルだという好印象を持っていただけたようです。入社後は発信源となる仕事に携わり、auブランドを世界一にすることが目標です。就職活動の原動力は自身の将来への好奇心。いろいろな世界をたくさん見てください。

三菱電機システムサービス株式会社に内定

●電気電子工学科 4年
菊池 智大さん



面接対策と企業研究が 成功の秘訣

震災を経験し、電気の知識を活かして社会に貢献したいという思いが強くなりました。内定した会社を志望したのは、業界大手で高い製品シェアを誇り、ここなら活躍の場も多く高度な技術者になれると思ったのが一番の理由です。書類審査、グループワーク、SPIをクリア。その後行われる2回の面接のために、友人に協力してもらって面接練習を繰り返しました。その成果と徹底した企業研究が成功につながったと思います。また、資格について尋ねられた時に、勉強している電験三種のことを話せたのもプラスになりました。就活は大変ですが、妥協せずに最後までしっかり取り組んでほしいと思います。

大和ハウス工業株式会社に内定

●建築学科 4年
遠藤 秀祥さん



面接での失敗も プラスに変える

ものづくりが好きで、その中でも住宅を建てたいという思いから、ハウスメーカーへの就職を希望しました。技術系の設計や施工管理の職種に絞って企業を選択。工学部就職セミナーでは数多くの企業の説明を聞き、興味を持った会社の説明会に参加しエントリーしました。内定した会社は、Webテストで合格した後、グループディスカッションと面接による個人面接がありました。審査の時にプレゼンの仕方が悪いと指摘を受けましたが、それをプラスに変えるように冷静に対処したことが評価につながったと思います。入りたい企業の研究とともに、自己PRのポイントをしっかりと掴んでおくことが大切です。

株式会社大林組に内定

●建築学専攻 2年
森 玄樹さん

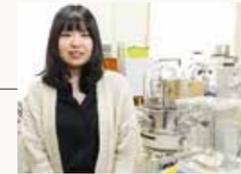


二級建築士の 資格取得は有利

スーパーゼネコンの中でも、多くの先輩が活躍している会社で、宇宙エレベーターの開発という未知の領域に挑戦できることから、大林組を希望しました。学内で開催されるさまざまな大手企業の単独説明会では、リクルーターの方と直接話ができて、いろいろバックアップもしていたので貴重な機会です。選考についてのアドバイスをいただき、しっかり対策できたことが内定に結び付いたのだと思います。「日大は建築が強い」と言われていることも後押しになりました。また、大学院に進学し二級建築士の資格を取得したことや深く研究活動に従事できたことも就職に有利に働いたと思います。

東北ニプロ製薬株式会社に内定

●生命応用化学科 4年
笠間 怜緒奈さん



企業の役に立つ 自分の良さをアピール

4年間勉強してきた化学を活かせる仕事に就きたい、人の役に立ちたいと思っていたので、製薬会社を選びました。実際に動き始めたのは12月からですが、就職ガイダンスやSPI模擬試験など学内で行われる模擬テストには必ず参加し、事前の準備を整えました。工学部は求人数が多いのも魅力の一つ。CSNaviの求人は欠かさずチェックしていました。工学部の学生を探りたいという会社の求人だから、可能性も高いはず。私は面接で、ものづくりに携わりたいという強い思いを伝えましたが、その企業の役に立つ自分の一番良いところをアピールすることが成功の決め手だと思っています。

株式会社アサカ理研に内定

●生命応用化学科 4年
東城 黎子さん



地元企業も数多く集まる 工学部就職セミナー

工学部就職セミナーには、福島県内の企業も数多く集まり、地元就職を考えていた私にとっては大変役立ちました。本格的な活動もここからだったので、いろいろな業界や企業のお話を聞ける絶好の機会になりました。その中で、興味を持ったのが内定した会社でした。ここなら、大学で学んできた化学を活かせる仕事ができると思いました。エントリーシートや面接でも自分を飾らず、ありのままを見てもらうようにしたのが、よかったと思います。入りたいという熱意が伝わったと評価をいただきました。女性が多く活躍している企業なので、将来結婚や出産をしても働き続けていきたいと思っています。

東日本旅客鉄道株式会社に内定

●機械工学科 4年
小林 遼さん



サークルでの キャプテンシーが評価される

祖父が国鉄(現在のJR)に勤務していたので、幼い頃から鉄道関係の仕事をするのが夢でした。工学部に入ったのも、知名度が高く就職に有利だと聞き、ここなら夢を実現できると考えたからです。思ったとおり、日本大学の知名度はアドバンテージになりました。面接では、水泳部で主将を務めたことが活かされました。部員が満足するように計画を立て、スキルアップできる環境を整えたキャプテンシーと強い責任感、そして思いやりの精神が評価されたと思います。希望通りの就職につながり、大満足しています。社会に出てからも、工学部で築いた多くの人のつながりを大事にしていきたいと思っています。

富士重工業株式会社に内定

●機械工学専攻 2年
鈴木 雅年さん



自分をいかに 売り込むかが鍵

自動車業界の中でも個性的で高い技術力を持ち、「スバリスト」と呼ばれる熱心なファンがいる会社で、自分もそのような自動車を造りたいという志望しました。同じ研究室の卒業生や昨年内定していた1つ上の先輩に、採用までの流れや仕事内容などをリサーチしていたことが大変役立ちました。面接では研究に関する話がほとんどでしたが、自動車の安全について専門的に研究してきたことはもちろん、研究を通して学んだこともアピールしました。どのように貢献できるのか、自分という商品をいかに売り込むかが勝負の鍵。また、学校推薦は希望の就職を実現できる近道です。ぜひ活用してください。

株式会社日立製作所に内定

●情報工学専攻 2年
戸村 嘉実さん



徹底した面接対策で 第一志望の内定をつかむ

志望した会社は2月にリクルーター面接による学内選考がありました。その時、リクルーターの方から厳しく指導されたことで、面接対策を徹底したのです。就職指導課の方や学科の先生方にご協力いただき、面接練習を行いました。いろいろアドバイスをいただき、自分の考えも整理しました。それが功を奏し、ものづくりが好きで希望したメーカーに内定をいただくことができ、とても感謝しています。実際に活動を終え改めて実感したのは、やはり成功の秘訣は早めの行動だということです。まずは自己分析をしっかりと行い、自分の持つ価値を最大限にアピールできれば、就活は成功すると思います。

日本電気株式会社に内定

●情報工学専攻 2年
森 裕太さん



プロからのアドバイスは 最良の選択になる

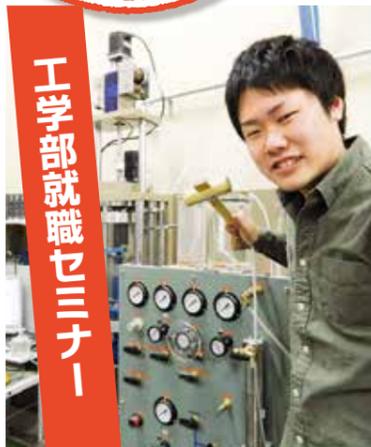
一番の決め手はエントリーシート。私の場合、面接を受ける前のエントリーシートをリクルーターの方や指導教官に見ていただき、キッチリ仕上げることで、面接もスムーズに進められました。研究してきた衛星のセンサによって得られたデータの解析が、内定先の事業部にマッチしていたこともプラスに働きました。知名度のある日本大学、そして企業が求める論理的な思考力を持つ人材を育成する工学部だから、就職にも有利。さらに、エントリーシートの添削から面接指導までサポートが充実しているのも強みです。一人で悩み時間をロスするより、周りの意見を聞くのが最良の選択になると思います。

就職 特集

工学部の 就職支援 **活用術**

KATSU
YOU
JUTSU

“使わないと、もったいない！”工学部の就職支援をどのように活用すればよいか、希望の就職を手に入れた4年生がその秘訣を伝授します。



工学部就職セミナー

内定先:株式会社大本組

●土木工学科 4年
川崎 丞さん

工学部就職セミナーの 企業の多さは 高い就職率の裏付け

私の場合、本格的に就職活動を始めるきっかけが工学部就職セミナーでした。もの凄い企業の数に圧倒されましたが、それだけ工学部の学生を採りたい企業がいるということ。だから自信にもなります。この機会を有効に活用しなければと思い、3日間で12社くらいの説明を聞きました。より一層真剣に取り組むためのスイッチになったので、参加してよかったと思います。人よりも早い行動、そして対話力を重視して就活に臨みまし



た。工学部に入ったのは就職率の高さからでしたが、多くの卒業生が活躍していて大手企業への就職にも強いことを実感しました。現場で使えるより実践的な勉強も、将来役立つと思います。

POINT!

工学部就職セミナーは採用確率が高いので必ず参加しよう！
まだ迷っている人には
業界や企業を知るチャンス
事前に質問事項を
考えて臨もう



理系女子のための
就活講座

内定先:パナホーム株式会社

●建築学科 4年
中津留 桂さん

自信を持って臨める 女性ならではの 就活テクニック

男性が多い建築業界で就職活動することに不安を感じていました。それで、就職ガイダンスの女子学生向けの講座に参加してみようと思ったのです。身だしなみや立ち居振る舞い、姿勢やメイクまで、女性ならではのテクニックを知ることができ、大変参考になりました。工学系女子は不利だと思っていましたが、社会では女性の視点や気遣いが求められていることもわかり、自信を持って就活に臨むことができました。面接官の方から、一番いい笑顔だったと褒めていただけたように、リラックスして会話できたことが好結果につながったと思います。女性であることを活かし、細やかな気配りができる社会人を目指します。



POINT!

化粧もマナーの一つ！
就活メイクをマスターしよう！
女性ならではの視点が大事！
自信を持って臨むこと
面接はリラックスして受けることが
成功の秘訣！



就職活動体験報告会

内定先:東日本旅客鉄道株式会社

●機械工学科 4年
武山 智史さん

生きた参考書である 先輩たちの体験談を 役立てよう

就職活動を本格的に始めるきっかけは、先輩たちの就職活動体験報告会でした。その体験談は成功例だけでなく失敗例もあり、実際に役立つ情報がたくさんありました。特に役立ったのが自己分析方法です。自分も同じように実践してみたら上手く分析できました。また、体験談を聞くことで、就職活動へのやる気も高まったので、参加してよかったと思います。希望した会社には、サークルの先輩や卒業生が就職していたので、エント



リーシートの添削、参考書やアドバイスもいただき、試験への対策を講じることができました。先輩方の就活の体験は、まさに生きた参考書。学科問わず、体験談を聞くとよいと思います。

POINT!

先輩の体験談から自分に合う
就活対策をつかもう！
成功例だけでなく
失敗例も参考になる
参加することで
就活への意識、やる気も高まる



公務員試験対策講座

内定先:国土交通省 東北地方整備局

●電気電子工学科 4年
梅津 義生さん

大学に通いながら 土日を使って 効率よく対策できる

東日本大震災を経験し、災害時に多くの公務員の方々が一生懸命働いている姿を見て、自分も人々に直接貢献できる公務員を目指そうと考えました。公務員試験対策講座は3年前期の実践コースから受講。普段は授業を頑張り、土日は公務員試験の勉強に集中しました。一般教養だけでなく、論述試験や面接試験の対策も一人ひとりに丁寧に指導してくれるので、とても助かりました。講座を通して仲間ができたのも大きな力になりました。大学に通いながら試験勉強ができ、費用も安いなど、工学部は公務員を目指す環境が整っています。最後まで諦めず、地道にコツコツ勉強することが合格の決め手。早めの対策を心掛けましょう。



POINT!

国や県、市町村、警察官や消防士など
自分に合う公務員を探そう！
公務員も
コミュニケーション力が必要
地道に毎日コツコツ
勉強することが大切



インターンシップ

内定先:日新製薬株式会社

●生命応用化学科 4年
長瀬 大さん

自分を成長させ 就職につながる 有効的な手段

化学系の会社の仕事や学生と社会人との違いを知るために、3年生の企業実習を履修しました。夏休みには地元山形県の製薬会社で、1週間のインターンシップに参加。薬をつくる工程を見学したり、実際に薬の製造も体験し、医薬品開発に興味を持つようになりました。学んだことを活かしたいと考え、研究室も医薬品の開発研究ができることに決めました。採用されたのは、ほとんど院生



だったので、インターンシップに参加していたことが大きかったと思います。就職活動は辛いことも多いですが、自分を成長させるチャンスでもあります。インターンシップだけでなく、どんなものにも興味を持って参加してください。

POINT!

インターンシップを経験して
やりたい仕事を明確にしよう！
仕事場を見るだけでなく、積極的に
社員の方と会話することが大切
どんなものにも
興味を持って参加すること



企業就職試験対策講座

内定先:ソフトバンクグループ通信3社

●情報工学科 4年
長峯 秀明さん

成功に導く 早めの試験対策と スキルアップ

就活に対する意識を高め情報を得ることでモチベーションを維持しようと考え、企業就職試験対策講座に参加していました。SPI模擬試験は、その時点での自分の実力を知り、その後の対策を早めに立てるために役立ちました。自己PRや小論文対策なども事前の準備として効果的でした。その他、TOEICの勉強やMOS資格の取得など、自分が行きたい企業から内定をもらうために必要なスキルや心構えを分析し、実行しました。工学部は大手企業の推薦が豊富にあるので活用するとよいでしょう。成功の決め手は緻密な戦略を立てること。今のうちに最低限のPCスキルと英語力を身につけておくことをお勧めします。



POINT!

早期に就職への
意識を高めることが大切
自分の実力を知るために
試験対策講座は必ず受けよう！
TOEICや資格取得で
スキルアップを図ること

若いときの経験が糧になり
その積み重ねが武器になる

社会で活躍する卒業生



郡山市役所 秦 毅様 (写真:右)

PROFILE

1983(昭和58)年3月、工学部土木工学科卒業。橋梁関係の施工会社に就職。その後、転職し郡山市役所に勤務。ご尊父 裕様は1958年3月に、ご息雅氏(写真左)は2013年3月に土木工学科を卒業。親子三代にわたり工学部で学ぶ。

一日本大学工学部土木工学科に入学した理由をお聞かせください。

父が第二工学部(現工学部)を卒業し、公務員として土木に携わっていたこともあり、子どもの頃から土木技術者に憧れがありました。東京暮らしの夢もあり、他の学部も考えましたが、やはり実家から通える工学部を選びました。

一大学時代の思い出をお聞かせください。

授業を欠席したことはあっても、学食に行かない日はなかったというくらい、学食にはお世話になりました。当時は体育館の1階に食堂がありましたが、今と変わらず昔から安くて美味しくてボリューム満点でした。また、授業の一環で行われた磐梯山の測量実習も印象に残っています。測量のミスに気づき、日が暮れた丘陵でライターの灯りを頼りに計測したことは、今でも仲間と語りあう懐かしい思い出です。



磐梯山での測量実習

一大学時代の学びで特に印象に残っていることは何ですか。

大学で学ぶことは基本です。授業で「使う材料の選び方で儲けが変わる」と教えられました。同じコストでどれだけ効果を上げられるか、基本を踏まえて応用することも大切です。4年生の時は橋梁工学研究室に所属し、橋の振動計測などを行っていました。まだパソコンというものが世に出ていない時代でしたから、学内にある大きなコンピュータで実験データを解析していました。データを入力して数時間後に計算結果が出るという、今では考えられないものでした。



橋梁工学研究室の仲間

一日本大学工学部の魅力は、どのようなところだと思いますか。

工学部の大きな特色は、この広いキャンパス。ゆったりとしたキャンパスで4年間過ごすことで、工学部ならではの学びが体験できると思います。さら

に、私の時代とは見違えるほど施設が充実していることも大きな魅力です。そして、なんといっても正門から続く桜並木でしょう。卒業し結婚後も家族を連れて桜を見に来ていました。この環境をいつまでも守ってほしいですね。



卒業後も楽しみに訪れた工学部の桜

一どのような理由から勤務先を選ばれましたか。また、やりがいは何ですか。

研究した橋梁工学の知識を活かすために、卒業後は橋梁の施工会社に就職しました。その後、事業全体に携われる仕事に興味を持ち、公務員の道に進みました。行政における土木は配属部署により業務内容が全く違い、勤務替えの度に勉強が必要で、土木工学のフィールドの広さを改めて実感させられます。やりがいは、やはり地図に残る仕事に携われることです。

一これからの工学および土木業界はどうあるべきだと思いますか。

土木は今までインフラ整備に重点を置いていましたが、最近では構造物の維持管理の重要性も問われています。それを踏まえた技術開発も必要になるでしょう。また、自然と調和した施工方法やデザインの確立も、これからの土木には必要だと思います。

一日本大学工学部の後輩たちにメッセージをお願いします。

「若さ」とは、何が怖いかを知らないことです。逆に言えば、恐れることなくチャレンジできるということでもあります。若いうちにいろいろな経験をしてください。失敗もあるかもしれませんが、無駄ではありません。それが糧になり、その積み重ねが自分の武器になります。そして、学生時代はもちろん、卒業してからさまざまな局面で頼りになるのが仲間です。「仲間」を大切にしてください。



「母校を訪ねる会」での旧友との再会

工学研究所 NEWS

第14回 産・学・官連携フォーラム

福島のもるなる飛躍に向けて！ ～産総研と地域企業との連携を目指して～



10月24日(木)、工学部50周年記念館において、「第14回産・学・官連携フォーラム」を開催いたしました。

独立行政法人 産業技術総合研究所(産総研)の福島再生可能エネルギー研究所が平成26年4月に郡山市に開所します。今回のフォーラムでは、産総研と地域企業との効果的かつ実務的な連携に視点を置き、地域企業に向けて新しい連携のステップに繋がることを目的として、特別講演とパネルディスカッションを企画いたしました。

■特別講演 産総研と地域企業との 連携の仕組み、事例

尾崎氏は第1部の特別講演の中で、産総研の役割と分野、連携への取り組み、開所予定の福島再生可能エネルギー研究所、中小企業との連携事例等について紹介されました。

尾崎氏は「具体的な施策があり、それを解決したい時に産総研の技術を使うことが可能」とした上で、中小企業共同研究スタートアップ事業や経済産業省のサポイン事業(戦略的基盤技術高度化支援事業)、産業技術連携推進会議等を紹介しながら、さまざまな連携実現の形があることを示唆されました。

また、郡山市に開所される福島再生可能エネルギー研究所について、「6つの課題に取り組むとともに、世界的なレベルの研究で実用化を目指し、新たな産業の創出によって地域に貢献することを目標としている」と述べられました。



独立行政法人 産業技術総合研究所
イノベーション推進本部 産学官連携推進部
産学・地域連携室長
尾崎 浩一氏



■パネルディスカッション 産総研、企業、銀行、大学がどのように関わり 連携していけるのかを探る

第2部は、ご講演いただいた尾崎氏と株式会社アリーナ代表取締役社長の高山慎也氏、株式会社東邦銀行法人営業部長の齋藤哲氏をお迎えし、パネルディスカッションを行いました。工学部工学研究所次長の柿崎隆夫教授が座長を務めました。

尾崎氏は「郡山に産総研の研究所ができることで、産総研全体との連携も取りやすく密になることが期待できる」と述べられました。産総研との連携による製品開発に成功した高山氏は地元企業を代表して「企業同士の異業種交流会に産総研や大学にも参加していただき、雑談から始めていく展開が望ましい」との考えを示しました。齋藤氏は銀行のさまざまな支援制度を紹介しながら、「再生可能エネルギー分野に限らず、産総研との連携につながる相談窓口として利用してほしい」と呼びかけました。柿崎教授も「チャレンジングな研究は大学で、実用化が見えてきたら産総研とジョイントするのがよいのでは。再生可能エネルギーをコアにして裾野が広がれば、それ以外の分野で実績をもっている企業の技術も活用できるようになる。今日をキックオフにして、どんどん交流を深めてほしい」と強調しました。

参加された企業の方は、「福島再生可能エネルギー研究所やサポイン事業について具体的にわかったのでよかった。これをきっかけにビジネスに発展させたい」と話していました。聴講した工学部機械工学科の学生は、「社会の第一線で活躍する方のアイデアを聞いたのは新鮮で刺激になった」と語り、学生にとっても産・学・官の立ち位置や金融機関との関わりについて知ることができ、大変有意義な機会になったようでした。



秦様は、10月27日(日)に行われた「母校を訪ねる会」において、親子三代にわたる工学部卒業生に対して贈られる「三世代賞」を受賞されました。受賞に際し「このような賞をいただき、大変光栄に感じております。ますます魅力ある大学になって、数多くの三世代卒業生を輩出されることを願っています」と喜びの言葉を述べられました。



「母校を訪ねる会」での授賞式